

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401118		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム星の里		
所在地	千葉県千葉市若葉区野呂町738-2		
自己評価作成日	令和5年3月14日	評価結果市町村受理日	令和5年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年4月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の周りの環境がとても良いので、利用者様にとってリラックスできる環境となっている。しかしコロナ禍でほとんど外出はなし。その為、施設内でのレクリエーション活動に力を入れている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの理念は「その人に合った介護を提供し、笑顔で過ごせる明るいホーム」であり、管理者・職員は理念に沿った支援を心がけている。利用者の生活歴や馴染みの人・場所等の情報収集が難しい場合は、入居後に利用者とともに過ごし、寄り添う支援の中から把握するようにしている。また、管理者はプライバシーを尊重することを一番重視している。コロナ禍で外出を制限しているが、オセロ・トランプ・麻雀・カラオケなどレクリエーション活動に力を入れ、利用者が笑顔で過ごせるような支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの壁や玄関の、目に留まる場所に掲示。申し送り時に唱和している。	理念はリビングの壁や玄関に掲示している。職員は勤務交代時の申し送りの最後に理念を唱和し、共有に努めている。常に利用者の立場に立った支援をするよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止の為、地域との交流を控えている。	地域の自治会に加入し、情報を回覧板から得ている。コロナ禍前は、利用者と散歩に出かけた際に、近隣の人との挨拶や会話をしてきた。また地域の清掃や花火大会に利用者・職員が一緒に参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染防止の為、地域との交流を控えているので、活かしきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、交流を控えている。これからコロナに対する状況も変わってくるので、少しずつでも再開できる様検討したい。	民生委員・自治会代表・近隣代表・地域包括支援センター職員を委員とし、3か月に1回開催することになっているが、コロナ禍で実施していない。書面開催を目標達成計画に挙げているが実現していない。	事前に各委員に議題の送付と意見照会をし、その議事録を作成・返送することで、書面開催であっても双方向となる取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは主に電話連絡し、協力関係を築いている。	行政担当職員とはこまめに連絡を取り合っている。また、地域包括支援センターには、運営推進会議に参加してもらい、意見交換していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回研修を行い、ケアの質の向上に取り組んでいる。	身体拘束しないケアを実践している。身体拘束等適正化委員会を3か月に1回開催し、規定を職員に周知徹底して、身体拘束ゼロを継続できるようにしている。不適切な言動については、職員間で注意し合っている。	「身体的拘束等の適正化の指針」に身体的拘束等適正化委員会が謳われているが、委員会そのものが規定されていない。委員会の設置目的、組織、役割を明確にした規定を「指針」に盛り込むことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回研修を行い、ケアの質の向上に取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の影響もあり、研修参加できなかったが、今後は状況を見ながら参加できるよう努力する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書の説明、質問等に答え、ご理解・納得していただき、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望・意見など、相談できる環境ができています。相談できない方にも利用していただけるよう、意見箱も設置しています。	利用者の意見や要望は、居室で話しやすい環境を作って聞き取っている。聞き取った利用者の意見等は申し送り時に共有するように努めている。意思疎通が難しい利用者に対しては、スキンシップなどを取り入れて心を和らげ把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の相談要望などは、管理者が積極的に聞いている。	職員からの意見や提案は、管理者が職員一人ひとりから聞き取りをして総合的に判断している。また、個人面談して意見等を聞き取ることもある。管理者は個人の意見を尊重することを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常の勤務状況を把握し、個々の働き方等に合わせ、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のレベルに合わせながら、ケアの指導・質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流をしていないので、機会を作るよう努めていく。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけコミュニケーションをとり、利用者様との信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全入居者が生活保護受給者となりキーパーソンが不明であるが、ご友人や前任ケアマネージャーから情報を収集するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・計画作成担当者が、ご本人とコミュニケーションをとりながら、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様扱いしすぎる事なく、なじみの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全入居者が生活保護者となり、キーパーソンは不明だが、ご友人等の面会者が来所した際には、また面会に来所したいと思われる施設になるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで面会は控えて頂いていたが、様子を見ながら受け入れていくよう努力する。	近親者と疎遠の利用者も多く、馴染みの場所や人について情報収集が難しい場合もあるが、利用者に寄り添いながら把握に努めている。コロナ禍前に訪問客が会った際には、ホームでお茶を出して一緒に過ごしてもらえようとしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活やレク等で、利用者同士関わり合い職員が支援し、支え合える様努力している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望に応じて、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを取とり、情報などを把握し、職員間で情報共有。本人の医師に沿うように検討している。	職員は利用者と話をするを心掛け、会話の中から思いを聞き出すようにしている。意思表示が難しい利用者でも、接する中で意向などをくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活保護受給者で情報が少ない為、情報の成否の判断が難しいところもあるが、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の毎日の生活の中で、職員は心身の状況確認、行動力、行動範囲を観察し把握して連携を図り、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に一人一人の状況、毎日の情報の確認、共有、活用できやすいようにプランの作成を行っている。	独居の利用者が多く、入居前のアセスメントでは医療機関などからも情報をもらうことがある。入居後は、介護日誌や訪問医の意見を参考に、月末にモニタリングをおこない、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌、記録、情報を職員全員で共有し、サービスの質の向上も行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に心身の状況変化を伴う利用者様に対して迅速な対応、適切な判断ができるように、気配りしながら接し、行動している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止により地域の行事も中止になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況にあった医療連携を考えており、通院での受診、訪問での訪問診療を適切に利用し、主治医と連携を図っている。	入居時に利用者等に説明して同意を得たうえで、ホームの協力医を主治医とする人が多い。状況に応じて、内科的な診療は月2回の訪問医受診で対応し、専門的な治療は通院同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅療養管理指導にて、訪問医院の看護師と24時間連絡・相談ができる環境が整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、MSWと連携を図り、安心して元の生活に戻れるよう、面会や情報交換をし、ご本人の状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設ではターミナルケアは行っておりませんが、24時間訪問医院に連絡ができ、指示に従って行動できるように、整備されている。	ホームは法人の方針により看取りをおこなっておらず、利用者が重度化した場合には、医療機関と連携して対応するようにしている。利用者が重度化した場合は、ホームの協力医立ち合いのもと、関係者に説明するようにしている。	利用者が重度化した場合や終末期を迎えた際のホームの対応について、看取りをおこなっていない事も含め明文化する必要があると思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問医院の看護師から指導を受ける機会を設け、向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、職員に周知させている。	コロナ禍前は利用者も参加し、火災を想定した消防訓練を実施していたが、コロナ禍により今年度は避難経路の確認と出入り口付近の整理整頓の点検を職員でおこなった。災害に備えて懐中電灯や水、乾パンなど1週間分を備蓄しており、一覧表を作成して半年に1回点検している。	避難訓練は、ここ3年間実施されていない。コロナ禍であっても、災害が発生した場合に、慌てずに的確な対応を取れるよう、訓練を実施することが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様主体の介護を心掛けており、ご本人を尊重し、ご本人にあった声掛け・支援ができる様、指導に努めている。	職員は、居室に入る際は必ずノックし、利用者の名字で話しかけるようにしている。また、利用者の状況に合わせて、励ましたり寄り添ったりして常に声かけするように努めている。職員に不適切な言動があった場合は、事務所で注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とコミュニケーションをとりながら、本人の思いを察知し、利用者様の要望に応えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的にな雰囲気づくりをし、利用者様もペースで過ごしていただけるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活感があり、ご本人の希望に沿った身だしなみや、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、季節を感じていただけるような工夫をしている。また家事の参加ができる利用者様には、食事の準備片付けなど一緒に行っている。	食事は、法人から支給された食材を使って職員が手作りをしている。季節を感じてもらえる献立を提供し、おやつも手作りである。誕生日には希望のメニューにしたり、お正月にはおせち料理を出している。食事の後片付けに参加する利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・水分量の摂取状態は、毎食後毎日記録。個々の飲み込み状況などに応じて、ミキサー食などを行い、個々にあった食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は訪問歯科にて口腔ケアを受け、誤嚥性肺炎の予防や口腔機能維持に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、声掛けをして誘導している。	トイレでの排泄を基本とし、時間で声かけ誘導している。トイレを使用する際は、職員はドアを閉めトイレ前で見守りをしている。排泄の失敗があった時は、他の人に気づかれなように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分量のチェック、便チェックを施行。リビングで体操している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴。一人で出来る利用者様も職員が常に声掛けを心掛けている。	入浴は週2回で、同性介助を基本としている。利用者は職員とおしゃべりを楽しんだり、ゆず湯などで季節を感じられるようにしている。重度化した人には、職員を増やして対応し、入浴を楽しんでもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間は本人にお任せしている。職員は睡眠状態を観察し、良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は職員で共有。疾患や症状の変化に対応できる様、指導している。また変化時に対応できる様訪問歯科との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のラジオ体操・レクリエーション参加での気分転換などの支援。ご本人に合わせて過ごしていただき、家事ができる方には役割を持ち、生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナもあったので、人が多い場所への外出は控えているが、近場の散歩などはコロナが落ち着いた時などは、実施している。	車いす利用者も一緒にホーム近くを散歩している。また、天気が良い日には園庭にイスを出し、外気浴を楽しんでもらっている。コロナ禍前は車でショッピングモールに買い物に行ったり、外食、お花見や花火見物に出かけたりしていた。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者からの希望があれば、後請求で買い物などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望があれば、対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える場所に花を植えたり玄関に花を飾り、共有スペースはこまめに掃除し、利用者様が不快な思いをしないよう、その時々に対応している。	共用スペースの整理整頓・清潔を心がけ、毎日の清掃とソファ・手摺り等の消毒、1時間に1回の換気をおこなっている。リビングには、ソファと大型テレビを設置し、寛げるようにしている。また、花を飾って季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が過ごしたい場所で、過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が過ごしやすいよう、配慮している。	ベッド、カーテン、タンスが備え付けられており、清潔に保つため毎日の掃除を心がけ、可能な利用者は職員と一緒に掃除をしている。タンスやテレビ、仏壇などを持って来ており、ホームでは動線を確保して安全な配置を考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース・居室などには、なるべく危ない物は置かず、リハビリができるようにし、残存能力を維持する事を理解できる様支援を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと